

新規就農者の早期経営確立と次世代を担う

農業者の経営ビジョン実現

要約

- ・ワンストップ窓口設置による新規就農者の確保。
- ・主に就農して5年以内の新規就農者をリストアップし、就農後の経営をフォローアップ。
- ・専門家と連携し指導、助言を実施。

現状(背景)と課題

- ・農業の担い手の高齢化や後継者不足。
- ・農外からの新規就農者が増加。
- ・経営ビジョンや就農、経営計画の実現のための専門的な知見が必要。



目標

- ・認定新規就農者数(累計)
42名 → 48名
- ・フォローアップ修了者数(累計)
22名 → 27名
- ・専門家派遣数(累計)
29件 → 45件

活動内容

- ・ワンストップ窓口相談対応(延べ134人回)
- ・就農計画作成支援(26人回)
- ・新規就農者のフォローアップ(延べ176人回)
- ・経営研修会(1回)
- ・経営相談(30人回)

成果

- ・ワンストップ窓口相談は49名。うち、5名が就農。就農に向けて支援しているのは18名。
- ・就農認定に必要な就農計画作成支援を9名に対し実施。うち、認定を受けたのは3名。5名が作成支援継続中。
- ・就農後のフォローアップは、主として就農5年目以内の新規就農者32名に対して実施。フォローアップの内容は、栽培技術など営農全般に係ること32名、融資に関する事5名、補助事業の活用に関する事5名、販路開拓に関する事3名、家族経営協定締結に関する事1名。
- ・農業における雇用と労務管理に関する研修会を実施し、5名が参加。
- ・経営対応を通じて専門家派遣につながったのは13経営体に対して15件。その内容は、経営全般に関する事3件、法人化に関する事2件、IT情報化に関する事3件、雇用労務に関する事2件、販路拡大に関する事4件、経営継承に関する事1件。



新規就農者のフォローアップ活動



農業者からの相談対応

北部農業振興事務所農業振興課
担当：担い手・農地マネジメント係 竹村・穴戸
奈良の意欲ある担い手支援事業

普及活動のポイント

- ・新規就農者の確保と育成については、関係機関との情報共有、連携が必須。
- ・新規就農者の課題発見、課題内容の共有と、それを克服する行動変容が大事。
- ・相談対応から専門家派遣へと誘導、助言指導により方向性を明確にし、その上で伴走型支援を続けることが有効。

対象の変化

- ・イチゴを栽培品目とする就農希望者が多く、若手イチゴ生産者が増加。
- ・経営改善に向けた意識の向上。

対象者からのコメント

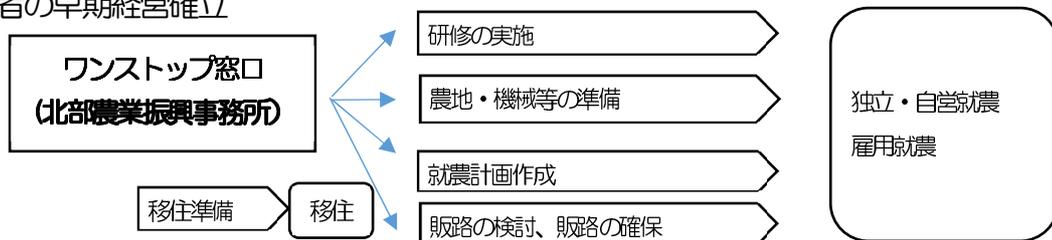
- ・新規就農には多くのハードルがあり、単独の力だけで就農するのは困難であったため、支援があり助かった。
- ・新たな取組をする場合、様々な選択肢があるためなかなか判断ができずいたが、専門家に要点を教えていただくことで行動へと移すことができた。

これからの活動ビジョン

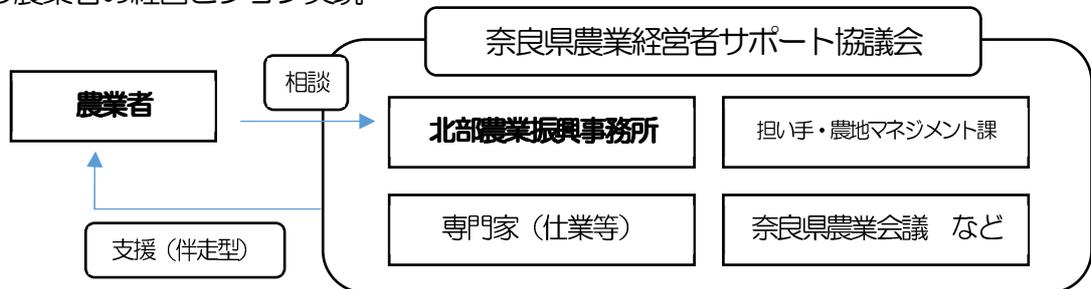
- ・新規就農フォローアップ対象者の今後の展開方針を推察し、自ら経営課題を認識させ、それを克服するように誘導していくこと。
- ・経営改善にはPDCAサイクルによる伴走型支援を続けることが有効であるため、フォローアップ活動を継続し、新たな課題が発生している場合には速やかに対応する。

活動体制

新規就農者の早期経営確立



次世代を担う農業者の経営ビジョン実現



用語解説

・認定新規就農者

新たに農業経営を始めようとする青年等が、市町村が作成する基本構想に示された農業経営の目標に向けて農業経営の基礎を確立しようとする青年等就農計画を市町村が認定した者のこと。認定を受けると、無利子資金の貸付け等の支援措置を受けることができる。